誌上行学講習会

高佐日煌上人

次に「縁覚心」。これは悟りの世界の心であります。悟りとは迷いの反対ですが、迷いとは自分に執着いたしまして何でも自分の考え方からものを割り出しておりますこと、仏教の専門用語で無明と言っております。無明とは明らかならずということで解らないのを股にはさんでいながら、解ったふりをする状態を言います。この無明に三つあり、一無智、二無自覚、三無意識（知覚の上に現れない）。

一の無智は、知識なきが故に、三の無意識は、二の無自覚は、自覚せざるが故に、知覚を越えた神秘を含んでいるものであります。いずれ教程が進むにしたがってこの間題の解明がなされますから楽しみにしていて下さい。即ちこの場合の縁覚の心理はこの無自覚の無明を破ったという境地に執着しなくなった我を破り、貪り、愚かな慢心を指します。しかって四悪（怒り、慢）の無くなった心の状態を言うのであります。そこで縁覚心の地獄心。これは断瞋恚心で瞋りを無くしてしまった心。縁覚心の餓鬼心。これは断貪欲心で貪欲を無くしてしまった心。縁覚心の畜生心。これは断愚痴心でおろかさを無くした心。縁覚心の修羅心。これは断憍慢心で憍慢の心を無くした心。縁覚心の人間心は常住三昧心。これは無我三昧。三昧というのはサマヤーという印度の言葉から来ているのですが、我を無くするという意味であります。

自我意識を取ること、自分中心の考え方を無くした状態を常住三昧心と言います。

縁覚心の天上心は無上三昧心。これはその我を無くした境地の、言うに言われない喜びを味わっている気持、これが無上三昧心であります。

縁覚心の声聞心は智得三昧心。縁覚心の縁覚心は発得三昧心。これらはその境地を開いて行くあつの行法を学ぶ。皆さん御承知の禅宗といっての一心りますがこれがそうであります。座禅というのが座しり方がやかましい。眼は半眼に見開く。結果扶座して真理を見つめようとする。日本には㈠曹洞宗、㈡臨済宗、㈢黄檗宗と三つの禅派があります。㈠の曹洞宗だけが㈡と㈢はよく似ている。㈠の曹洞宗だけが意識流儀を異にする。眼はされは雑念を払って無意識、眼はこれめて無意識したを動きを消しめる。即ち無我にのて中に入るとあいらゆる心修練をいたし禅を名づけ見て黙笑禅うと言うなる矛盾の臨済のします。止話題にしてうこれ話題を看話禅を聞いて答えを出えるを出と言うこと聞こえを行よくわせるのですからそうパチンと音は出ないしかし片手だけでは音は出ないのであります。

両方の手の声を聞こえを聞こえを合せる。

以下次号